

横浜市インフルエンザ流行情報 8 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザ流行注意報が発令されています。

【概況】

2017 年第 2 週(2017 年 1 月 9 日～15 日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **16.22**と、注意報発令基準値を上回った 2016 年第 51 週の 13.77 より増加しています。また、入院が必要となる**重症化事例**が、同時期に流行入りした 2014/15 シーズンより多く報告されており(本文 4 参照)、注意が必要です。

第 2 週の迅速診断キットの結果は **A 型 95.7%**、**B 型 4.3%**、**A・B 型ともに陽性 0.05%**となっています。市内のウイルス検出状況では、ほとんどが **AH3 型(A 香港型)**です(本文 7 参照)。

第2週に入り医療機関、高齢者施設内での集団発生の報告が急増しており、**ワクチン接種の有無に関わらず手洗い、マスク着用の徹底**といった施設内感染予防策や面会者等による外部からの持込みについても注意が必要です。

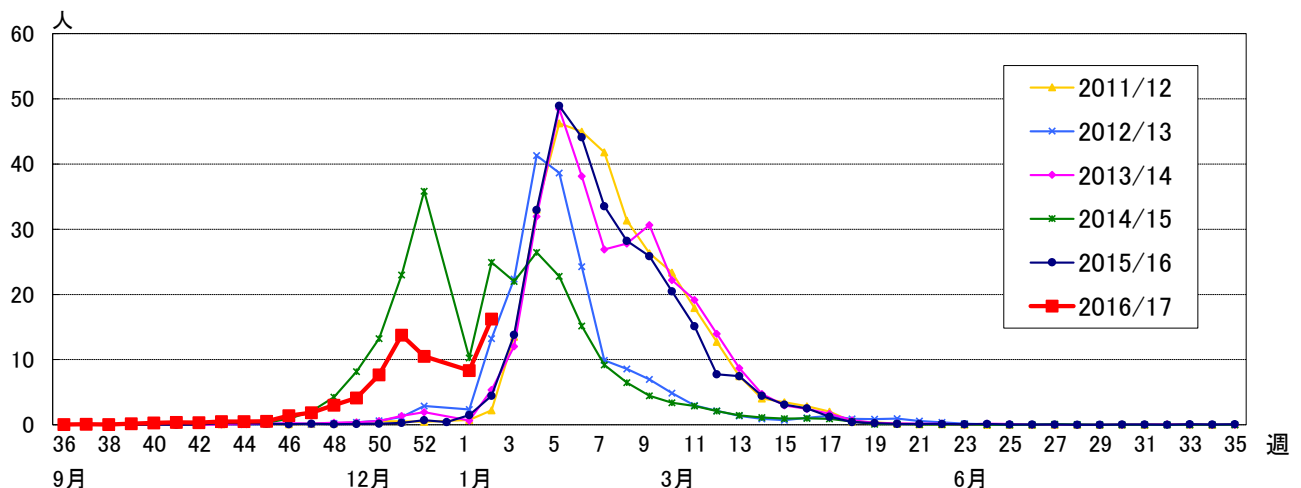
新学期も始まり、今後、学級閉鎖の増加と、大きな流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策^{※2}の重要性を踏まえて、充分にご注意ください。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は第 2 週で 16.22 となりました。第 52 週で 10.52^{※3}、第 1 週で 8.32^{※3}と報告が低くなっていますが、これは年末年始に定点医療機関が休診中のことが多いため、流行の実態を正確に反映していないことが考えられます。

※3 追加報告があったため、流行情報 7 号から報告数が更新されています。

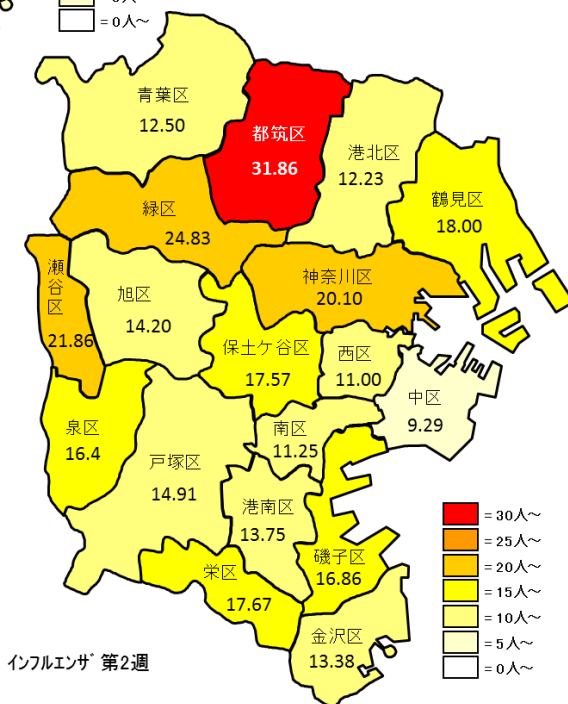
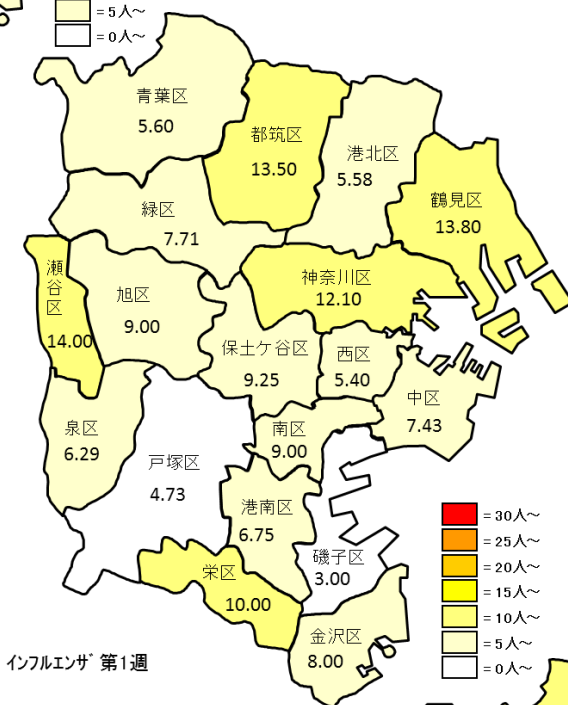
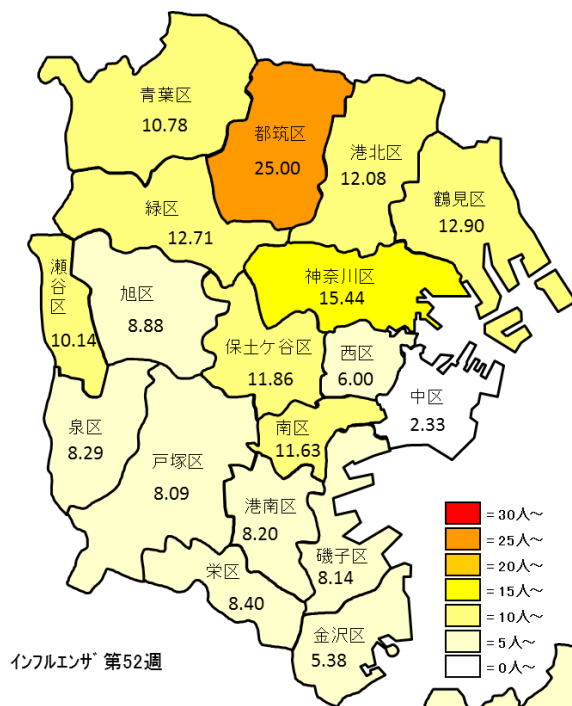


2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

2016年第51週(12月19日~25日)に市全体で注意報発令基準値(10.00)を上回りました。注意報は、4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示しています。

直近の5年間でも、注意報発令基準値を上回った翌週または翌々週には警報発令基準値(30.00)を上回っています。

現在、市全体で16.22と増加し、既に都筑区で警報発令基準値を上回っており、数週間以内に市全体で警報発令される可能性があります。



【参考リンク】

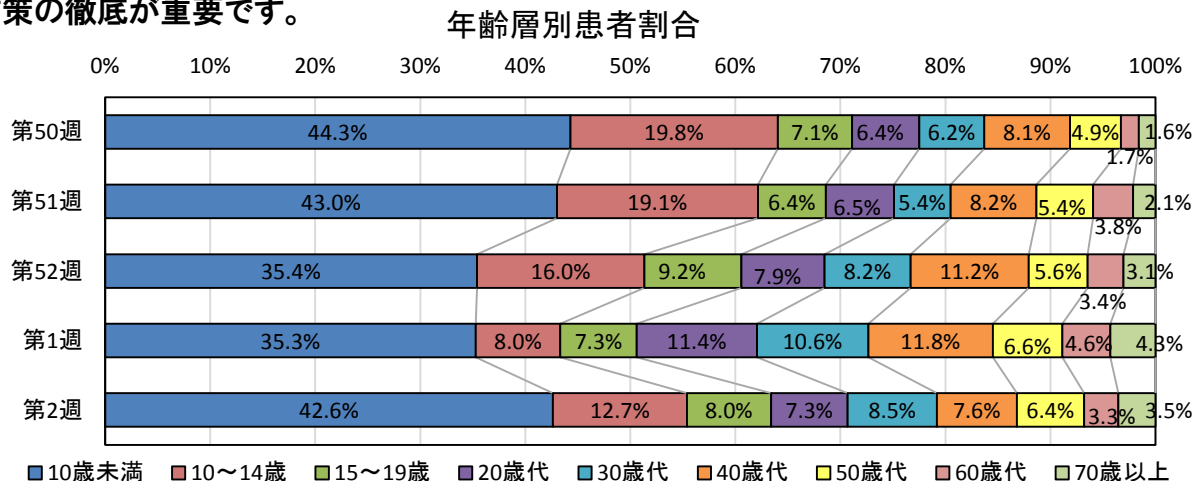
近隣自治体の流行状況

- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

3 年齢層別集計:第2週の患者年齢構成は、10歳未満が全体の42.6%、10歳以上15歳未満が12.7%となっており、15歳未満が半数以上を占めています。年末年始は15歳未満の報告数が減少していましたが、新学期が始まりましたので、引き続き小学校や中学校での感染予防策の徹底が重要です。



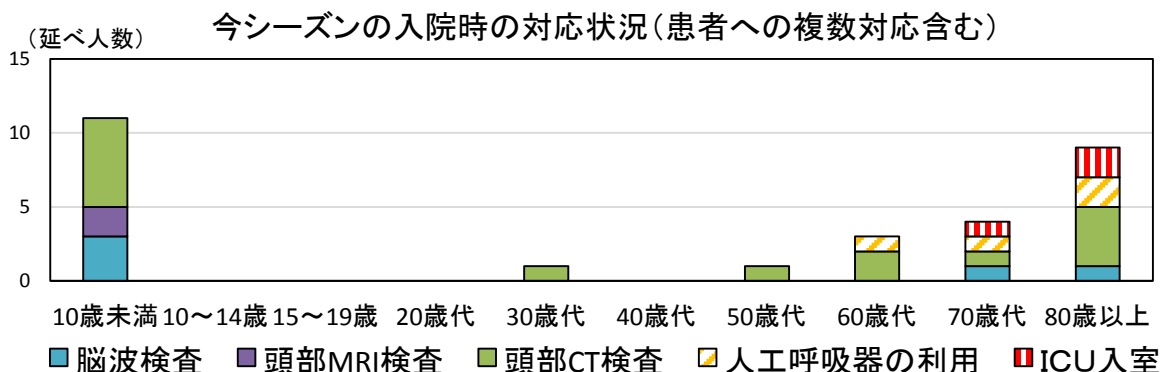
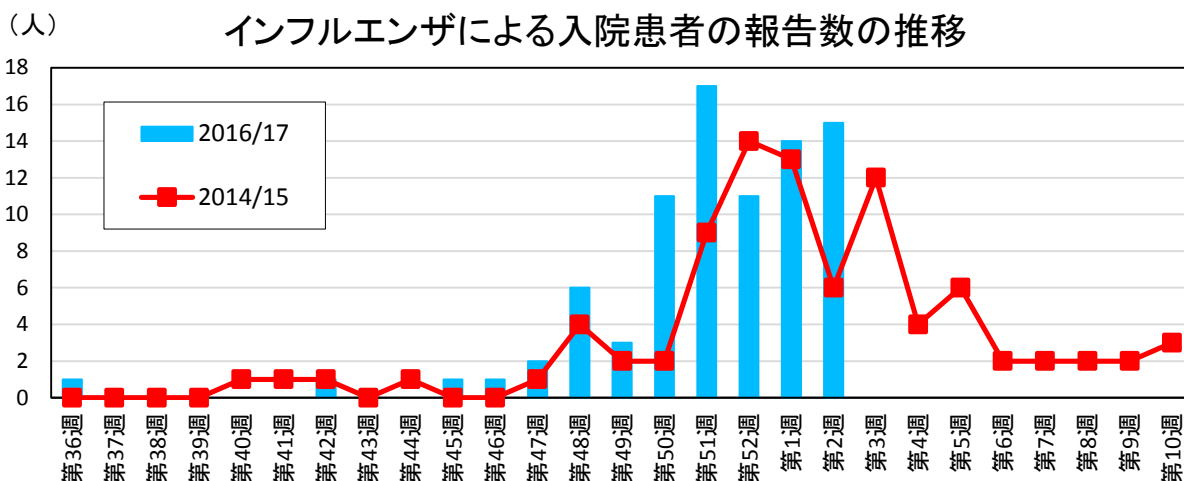
4 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※4}におけるインフルエンザ入院患者は第2週までの累計で83人となりました。うち、15歳未満が26人(31.3%)、70歳以上が36人(43.4%)となっており、小児と高齢者が多くを占めています。

今シーズンと同時期に流行した2014/15シーズンと比較すると、第2週時点での2014/15シーズンの累計入院患者は55人であり、今シーズンの方が多く報告されています。

入院時の診療内容が把握されている事例では、主に小児と高齢者に頭部CT検査、脳波検査が実施され、人工呼吸器の使用は60歳以上で計4件、ICU入室は70歳以上で計3件が報告されています。

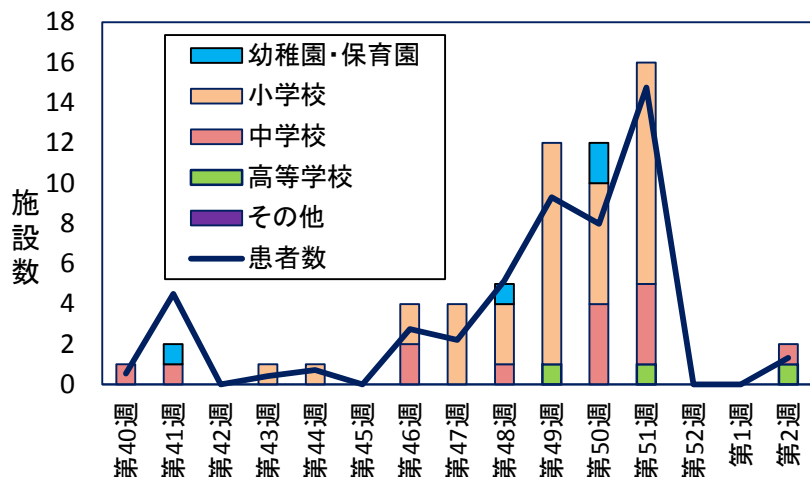
なお、今シーズン第2週までに報告された入院患者の迅速キット結果は、すべてA型でした。

※4 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。

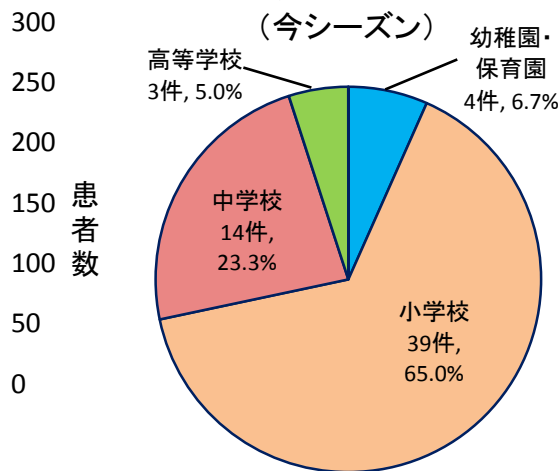


5 市内学級閉鎖等状況:第52週、第1週は冬休みのため、学級閉鎖等の報告はありませんでした。今シーズンは第2週までに60件が報告され、報告された患者数(医療機関で診断された人数とインフルエンザのような症状のある人数の合計)は延べ828人となっています。今シーズンに学級閉鎖等を行った施設の内訳は、小学校39件(65.0%)、中学校14件(23.3%)、幼稚園・保育園4件(6.7%)、高等学校3件(5.0%)となっています。第2週の2件は、中学校1件、高等学校1件でした。第2週から新学期を迎えている学校等が多いため、第3週以降、学級閉鎖等の報告数が急増する見込みです。1月16日、17日の2日間だけで、小学校を中心に30件以上の学級閉鎖等が既に報告されています。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移

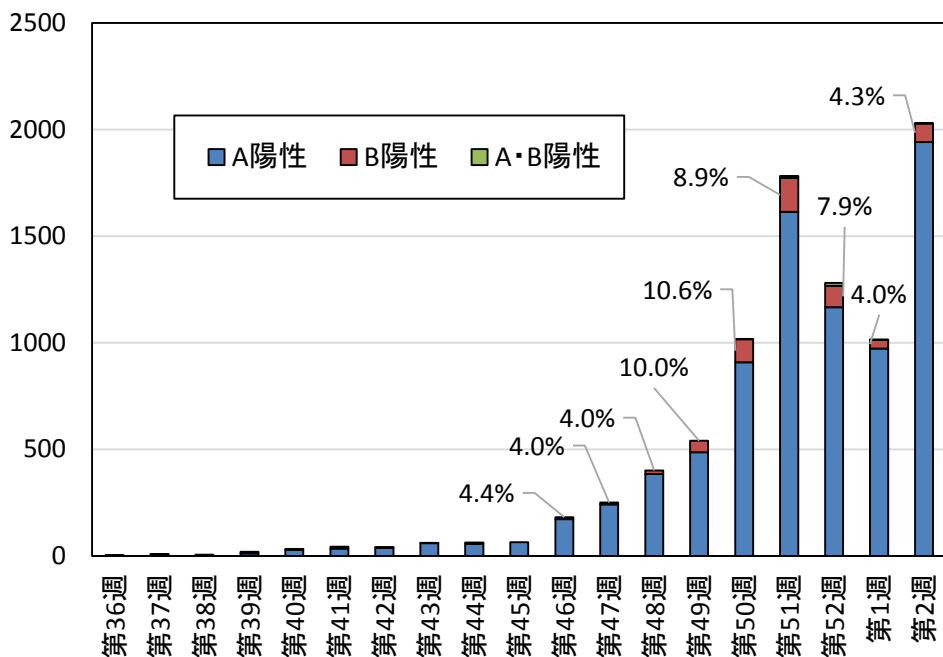


学級閉鎖等の施設の状況 (今シーズン)

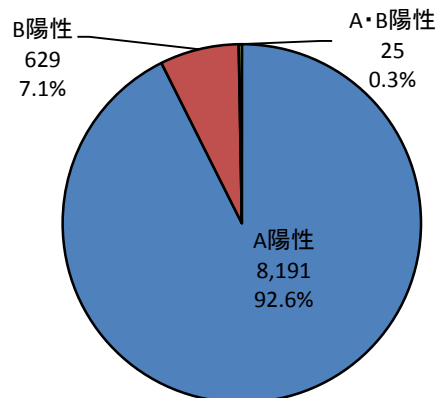


6 迅速キット結果:今シーズンの迅速キットの結果の累計は、A型92.6%、B型7.1%、A・B型ともに陽性0.3%で、A型が多く検出されています。第2週の結果はA型1,942人(95.7%)、B型87人(4.3%)、A・B型ともに陽性1人(0.05%)でした。

横浜市の患者定点医療機関における迅速診断用キットによる型別の報告数(人)



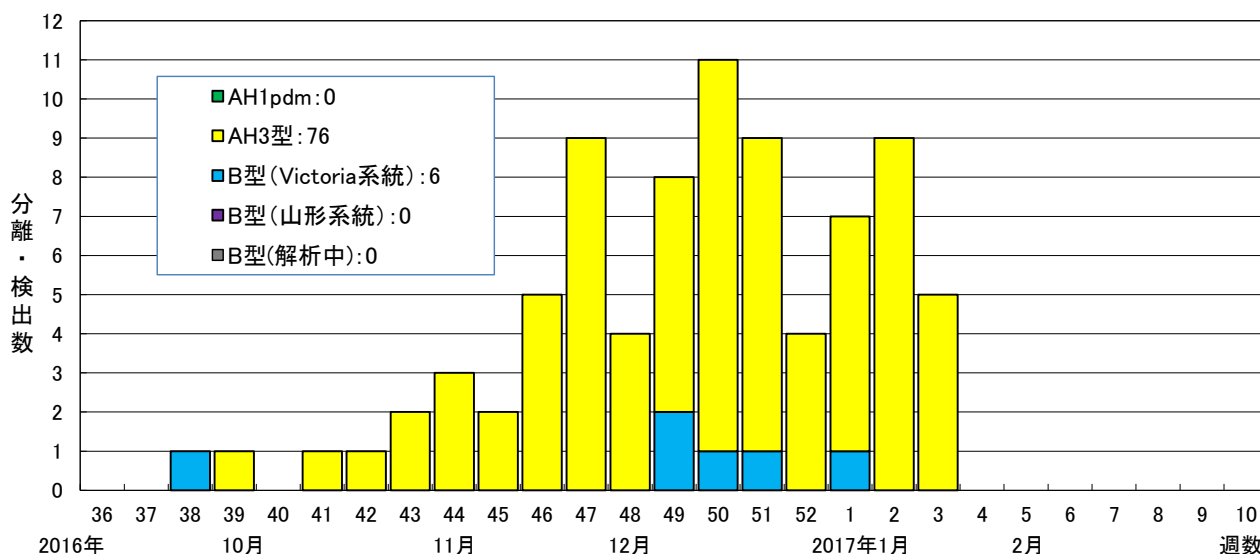
迅速診断用キットによる型別報告状況(今シーズン累計)



7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から AH3 型が最も多く分離・検出されており、全国※5の状況と同様です。

※5 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

病原体定点からのインフルエンザ分離・検出状況(2017年1月16日現在)



【参考】

市内で分離された AH3 株(細胞培養した 77 株)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)は、ウサギの血清を使っているため参考値ですが、すべて 8 倍以上でした。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内であり、現在までに市内で分離された AH3 株については、ワクチン株と類似しているとは言えず、国立感染症研究所の結果と矛盾しない結果※6※7と考えられます。

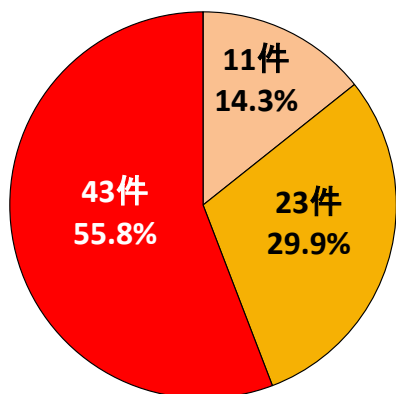
一方、市内で分離された B 型株(細胞培養した 12 株)については、すべて 4 倍以内でした。

※6 [インフルエンザウイルス流行株抗原性解析と遺伝子系統樹 2016 年 12 月 28 日\(国立感染症研究所\)](#)

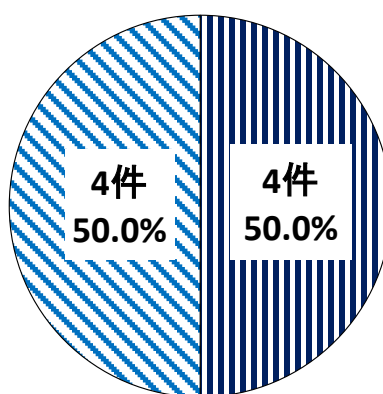
※7 [A\(H3N2\)亜型野外流行株の抗原性解析結果\(国立感染症研究所\)](#)

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析(2017年1月16日現在)

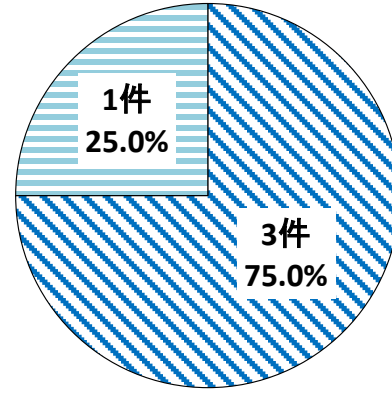
AH3 抗原性解析(77 株)



B ビクトリア系統抗原性解析(8 株)



B 山形系統抗原性解析(4 株)



■ 同等 ■ 2倍以内 ■ 4倍 ■ 8倍 ■ 16倍 ■ 32倍以上

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237